

リアクションバイトを誘うしかないから
60グラムから80グラムに替えて
フォールスピードを上げたんだよ。



●タングステンジグ
80グラムをチョイス
したのが奏功した

同時に食ってくる着トンも多い釣りだから、着底の瞬間にはしっかりと集中する。そして底付近はネチネチと攻めて根魚を狙い、宙層はワンピッチジャークで青物を狙うんだ」

にんまりと笑っているのは、イチロウだ。さっきのタカハシゴより大きく竿が曲がっている。なんだ？ いったい何が掛かったんだ？

SLJは、そのとき、その場所にいる魚がターゲット、というフリーダムな釣りである。たまたま前日に良型マダイが炸裂したから、我われとしてもなんとなくマダイを狙っているが、ハッキリ言って釣れればなんでもうれしく、面白い。

その名のとおり、SLJはタックルもスーパーライトである。面々が使用している竿、バンブルズ、エクストロSLJは細身でしなやかによく曲がり、しかも強い。

かわい根魚でもかなりの引



▲底をていねいに探り、小型のマハタをキャッチ

き味を楽しませてくれる一方で、ワラサクラの青物も難なく取り回すことができる。

イチロウが雨に打たれた笑みで釣り上げたのは、コンバクトながら立派なマハタだった。

ヨッシーがカサゴ、お客さんがカサゴ、続けてヨッシーがイサキ、お客さんがキントキと、ポツリポツリと魚が顔を出す。

右トモに釣り座を構えている大曾根康弘さんは、足繁く庄之助丸に通う常連さんだ。「ジグで魚をだますのが楽しいんですよ。エサ釣りととは違う、ジグならではの誘いの楽しさっていうのかな」と、冷たい雨を感じさせない穏やかな口調で静かな微笑みを浮かべる。

大曾根さんのタルの中には、すでにたくさんの根魚が入っていた。「多いときで年50回」と毎週のように通い詰めているだ

的確な情報提供と、それに基づく的確な戦略が見事に合致した。

ヨッシーには戦略があった。SLJは着トンばかりではない。非常に戦略的に楽しむこともできるゲームなのだ。冷たい風雨



▲良型のカサゴを連発する大曾根さん

けあって、確実に外房SLJを自分のモノにしている。

そして大曾根さんには、釣果以上に惹かれるものがあり、都内から興津の海にやってくる。「庄之助丸のアットホームな雰囲気が好きなんです。庄之助船長、おかみの良江さん、そして息子の誠二郎くん。3人のコンビネーションが最高」

苛酷なコンディションでさえ笑顔の絶えない庄之助丸は、確かに通うだけの価値がある。あと、今日という日を完成させるために必要なのは、ドラマだ。

SLJの名手、ヨッシーはブルブルと震えている。移動中はほとんど意識がないような状態だ。大丈夫だろうか……。

にやられながらもヨッシーの頭はフル回転し、庄之助船長のアナウンスから得られる情報をもとに作戦を練っていたのである。